

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19年 11月 23日
事業所名	グループホーム ジョイフル江南
ユニット名	
事業所番号	2373600168
記入者名	職名 ハウスマネージャー 氏名 宮地真由美
連絡先電話番号	(0587)52-3123

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に理念を掲示しており、ご家族への浸透はしていると思う。 ・地域への浸透はなかなかされていない。 ・ご家族へは、入所時に説明している。 	<p>地域の方へ向けたグループホーム便りを年4回発行しているため、そこへ、独自の理念を取り込んで行きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの中庭の手入れにきてくださるボランティアや、昼食の準備を手伝ってくださるボランティア等の受け入れを行っている。(地元の方) ・午前中の散歩の時間に犬の散歩をしている地域の方に寄り添い、話しかける事もあり。 	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域合同の納涼祭や運動会へ参加している。 ・地域の小学校への運動会の観覧や、月に一度の「ふれあい教室」の実施。 ・地域版グループホーム便りの発行(回覧板にて) ・地元の花屋へフラワーアレンジメントに出掛けしている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩中に道端のゴミ拾いの実施。 ・2ヶ月に一度、施設周辺の草取りの実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・いつもお世話になっている地域の方へ、何かできる事があれば、話し合って、行って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の外部評価の結果を、玄関に掲示している。指摘項目は、ワーカー会議の中で伝達し、検討、改善を行っている。 ・この自己評価票を記入する事で、職員の意識づけが出来ている。 		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、ご家族、利用者様に対し、グループホーム内での出来事や、取り組み等は報告できている。 		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の長寿介護保険課の職員とは、グループホームのサービスの質や、利用料金など、電話連絡などで検討・調整を行っている。 ・市役所の開催する教室へ積極的に参加している。 		グループホームから情報を発信するばかりでなく、身近な地域の自治会などへ参加し、地域からの情報も受け取って行きたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護について学ぶ機会(勉強会や研修)はなく、職員の理解度も低いと思われる。 		認知症の方はもちろん、精神的に疾患を持ってみえる方に対する理解度も深めて行きたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関するアンケートの答えたりしている。 ・利用者様の今までの生活歴や家族構成をある程度把握している。 ・グループホーム内では、管理職以外でも、職員同士で声を掛け合える様な雰囲気作りに努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関する勉強会は必要だと思う。 ・マニュアルの作成も必要だと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入所時に話し合いの場を設け、利用者様、ご家族へ十分説明行い、ご理解いただき、納得して頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者様から「つぶやき」と拾い、それを、グループホームエリア部会、リーダー会議、ワーカー会議内で挙げ、話しあい、必要な物に関しては、検討、改善を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・毎月のグループホーム便りにて、写真を交えて報告行っている。 ・月1回、出納帳を確認して頂き、捺印をして頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・相談窓口を設定している。(ハウスマネージャー) ・運営推進会議への参加を呼びかけ、意見交換の場を作っている。 ご家族から、意見を頂いた際は、申し送りノートへ記入し、全職員にて把握している。</p>	<p>全利用者のご家族へ、カルテの開示を行い、日々の様子を把握していただきたい。 ・全てのご家族に対し、意見を聞ける機会を作りたい(家族会など)</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・毎月、ワーカー会議を実施している。勤務上、参加できない職員も紙面上にて意見を提出し、全員で話合える場がある。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・一日、必要最小限のときもあり。緊急時や利用者様の対応で手薄になっていしまう時もある。</p>	<p>短時間パートを、午前中と午後に配置できたらと思う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・異動など決まった場合は、早い段階で新しい職員を受け入れ、研修期間を設け、余裕を持って対応できるように配慮されている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者、実践者研修の実施 ・初級、中級職員研修の実施 ・マナー研修の実施		一般職員に対しての研修を、もっと行えればと思う。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内の他のグループホームとの交換研修を実施している。		・他の業種(特養、老健、デイサービスなど)とも交換研修を行って行きたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・有給の消化 ・誕生日休暇 ・職員旅行の実施 ・法人内でのカウンセリングの実施あり。 ・休憩時間でもやらなくてはいけない仕事があり、落ち着いて休憩が取れない。		・休憩場所の確保 ・もっと身近に相談できる機会が欲しい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・なるべく負担が少なくなるような勤務を組んだり、希望休は極力受け入れている。 ・仕事に意欲を持って行えるよう、勤務状況や努力等を把握して欲しい。		・定期的に面接を行い。良い所は伸ばして行ける様な助言を行う機会を設けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入所前に、ご本人と面接を行い情報を入手している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・担当のケアマネを通じ、情報収集を行っている。 ・入所前に施設見学して頂き、不安な点や、疑問点などを伺っている。</p>	<p>・初期だけでなく、継続したコミュニケーションや、意志の把握が必要だと思う。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・入所前にお試し利用を実施し、サービスが適切かどうかの見極めを行っている。 ・他のサービス(ショートステイ、デイサービス)を利用してみえる方は、そこから情報収集を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・お試し利用を実施している。 ・利用前の施設見学の実施。</p>	
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・料理を教えて頂いたり、買い物で食材と一緒に選んだり、生活の中で一緒に過ごすことを第一に、人生の先輩として接している。 ・戦時中の様子など、知らない事を教わっている。 ・利用者様の生き方、考え方、生活の知恵をともに過ごす時間の中から学んでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時には、少しでも職員とお話する時間を作って頂いている。 ・行事への参加を呼びかけ、同じ時間を共有している。 ・ご家族ともコミュニケーションを密にし、信頼関係を築きながら一緒に利用者様を支えている。 		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの生活暦やバックグラウンドを理解したうえで援助を行っている。 ・行事や、特に誕生日会への参加を呼びかけている。 ・グループホーム便りをつきに1回送付し、付部の生活の様子をご家族へも知っていただいている。 		今以上に、バックグラウンドを把握していきたい。そのためには、今以上に、ご家族との情報交換が必要かと思われる。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブに出かけ、馴染みの場所やお店での買い物お行っている。 ・ボランティアの協力により、農作業の楽しみを味わって頂いている。 ・馴染みのものを家から持って来て頂き使用していただいている。 ・馴染みの方が立ち寄りやすい環境、雰囲気作りに努めている。 		個別での外出を計画し、昔からの馴染みの場所へ出掛ける機会を設けて行きたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様それぞれの役割を分かって頂けるよう、声掛け行っている。 ・利用者様同士が気持ちよく過ごせるような食席の配慮を行っている。 		認知症が進んでいる方ほどコミュニケーションが難しく孤立しがちであるため、職員が仲裁に入り他利用者様との交流を図って行きたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人を利用してみえる方は行事(夏祭り、敬老会、クリスマス会など)に招待している。 ・直接的な交流はなくなってしまっている。 		管理者とも話し合い、よい関係が続く様、何かしら取組んで行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全利用者様の希望の把握は難しい。 ・ある程度、自己主張のある方に関しては希望に沿って援助行えている。 ・朝食の時間は決めておらず、好きな時間に起床され、朝食を食べて頂いている。 ・テレビやラジオを居室へ入れてみえる方もある。 	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バックグラウンドの把握は、大体行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族からも、より詳しい生活暦や生活環境を聞く必要があると思う。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ADLの把握は行えている。 ・一日の過ごし方の把握できており、それに合わせた援助も行えている。 	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月カンファレンスを実施し三ヶ月から半年に一度は見直しを行っている。 ・1年に1度は計画内容の見直しを行い、必要であれば変更している。 ・ご家族、利用者様本人へもカンファレンスへ参加していただく様、呼びかけている。 	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状態の変化に応じ、その都度計画の見直しは行えている。 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日確実に記入は行えている。出勤職員は、毎日個人記録を確認し、情報の共有も行っている。 ・毎日の個人記録はプリントアウトし、全職員が閲覧している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・申し送りノートを活用し、その都度伝達行っている。 ・認知症の程度により、適切な支援のできる施設へ異動出来る体制である。		・ご家族の中には「やってもらって当たり前」と思ってみえる方もあり、十分な説明が必要と思われる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・定期的な消防署の立ち入り検査や、避難訓練の実施、地域ボランティアの協力による農作業の実施、地域の小学生とのふれあい教室の取り組みなど行っている。 ・民生委員やボランティアの出入りがある。 ・離説行為があった場合、警察の協力もある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域の美容室の送迎サービスを利用している。 ・社協開催の教室への参加		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括センターとの関わりは、ほとんどない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的な病院受診、薬の調整はご家族協力の下、かかりつけ医へかかって頂いている。 ・受診結果報告をご家族より受け、薬の処方など不明な点があれば、かかりつけ医へ連絡し確認を取っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・個人的に、アルツハイマー専門医にかかってみる利用者様はみえるが、他にはあまりない。		職員もご家族も専門医に相談したい事は多くあると思うため、認知症専門医とのかかわりを持って行きたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・医療連携体制加算の実施。 ・定期的な看護職員の来所。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院された時は、状態把握に努めるよう病院へ伺ったり、ご家族や病院関係者との連絡を取っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における指針を示し、入所時にはご家族へ特に時間を掛けてお話している。 ・終末期への意識は、職員もご家族も低いように思われる。		どなたも高齢であり、いつなにか起こるかわからない為にかかりつけ医とも終末期に向けての話し合いができると良いと思う。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度化における指針に基づき、同法人内の施設を紹介するなど、アフターフォローに心がけている。		終末期への意識が低いように思われるため、意識付けが必要と思われる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住み替えが必要となった場合は、管理者、申し込みセンター、住み替え先の相談員、ケアマネジャーなどと情報交換を行い、確実に伝達できている。 	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員対象に、プライバシーマーク勉強会を実施。 ・個々の利用者様の尊厳を守るため、その方の性格を理解した上で声掛け行っている。 ・写真を掲示する際は、ご家族へ了承を得た上で掲載、掲示している。 	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何に対しても、利用者様に判断して頂けるような声かえ行っている。「～しましょうか?」「どれにしますか?」等。 	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の都合(会議など)により、入浴日を変更してしまうことがある。 ・一人ひとりのペースを大切に過ごしていただいている。 	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向をお聞きし、ご家族の協力の下、馴染みの美容院を利用してみえる方はみえる。 ・意思表示困難な方はグループホームで理容を実施している。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物も利用者様と一緒にいき、食材と一緒に選び、食事準備もいっしょに行っている。		・食事準備の時間になると利用者様から台所へみえ、声掛けして下さる雰囲気をお大事にして行きたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・好き嫌いを考慮し、選択できる様飲み物などは用意している。 ・昔、飲酒してみえた方に対しては、外出先や、行事時にはビール等を飲んでいただいている。		・誕生日には、その方の好みをお聞きし、食事を作っている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・日中のオムツ使用者はみえず。夜間も個々の排泄パターンに合わせ、誘導、声掛けを行っている。		・理想だけでなく、現実も受け止め、本人様のストレスの軽減の為にオムツを使用するケースも検討が必要と思う。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・男性の利用者様が一番に入られる事を望まれ、他の方の希望はなかなか聞いていない。 ・気の合う方との入浴ができるよう、促している。		・昼食後に入浴できる時間帯を設け、希望される利用者様には入浴していただく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・起床、就寝時間は特に決まっておらず。日中も眠られる方には声掛けは行わず、ご本人ペースで生活していただいている。 ・シーツ類も定期的に洗濯し清潔保持に心がけている。		・巡視時のライトなどに気を配る。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・過去の生活歴、職歴などを基に、料理、畑の手入れ、裁縫など、役割を持って頂いている。 ・月に一度、寿司の日を設けている。		・意欲のない利用者様への声掛けや楽しめる物を考えて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・職員管理の財布とは別に本人様の財布を持ってみえる方もみえ、買い物に行った際にはお菓子など、好きな物をご自分で購入して頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日散歩の声掛け行い、施設周辺を散歩している。 ・玄関の鍵は日中は開放しており、好きな時に散歩に出掛けられる方もみえる。 ・2日に1度、近くのスーパーへ買い物に出掛けている。		・全ての利用者様へ希望通りの外出をして頂く事は難しいが、職員体制や、ご家族の協力を得ながら実践していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・月に一度、ご家族への参加も呼びかけ、昼食を兼ねて外出している。食事も好きな物を選んで食べていただいている。 ・地元の喫茶店へも月に1度ほど出掛けている。		・個別、または少人数で利用者様の希望を最優先して昔の思い出の場所へ外出できる機会を設けて行きたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方のお孫さんへ手紙を書かれる方あり。、援助している。 ・電話も希望があれば、その都度対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・基本的に、訪問時間の制限はない。 ・玄関の鍵の開放、来設された際のお茶などの用意の行っている。 ・玄関先には、「ようこそ、私たちの家へ」というプレートを下げている。		・利用者様に居室以外にゆっくり過ごして頂ける談話スペースの確保ができれば良いと思う。 ・玄関先のガーデニングの継続。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ほとんどの方がADLほぼ自立であり、身体拘束に関する意識は低い。 ・玄関の施錠も身体拘束になる、という意識が低い。		・法人では、身体拘束ゼロに向けて取り組みされている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・基本的に職員待機不足で利用者様に特変のある場合以外、日中は玄関の鍵は開放している。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・0時、3時、6時、9時、14時、16時、20時に所在確認の時間を設けている。 ・バイタル測定時、食事時、おやつ時も所在確認実施している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・洗剤など使用中の物は、利用者様の目につかない場所に保管し、在庫はかぎ着きの棚へ保管している。 ・ライターは、事務所管理している。 ・はさみ、包丁は夜間は棚に鍵を掛けて保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・マニュアルを作成してあり、それに基づき勉強会を1年に1度行っている。 ・事故報告書、ヒヤリハットは、職員全員で確認し、今後の対策や注意事項はワーカー会議内で検討している。		職員の適切な判断を見につける必要あり。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・応急処置の勉強会を1年に1度実施している。 ・特変時のマニュアルあり、すぐに対応できるように、事務所内に掲示してある。		定期的にマニュアルの見直し、確認、実演の実施が必要と思われる。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・1年に1度、地域合同の避難訓練に参加している。 ・グループホーム出火想定での避難訓練は行われるが、特養などと合同であり、単独では行われていない。		・グループホーム独自の災害時に備えた点検表を作成したため、定期的にチェックを行っていく。 ・家具の配置、耐震対策の実施が必要と思われる。 ・グループホーム単独での避難訓練の実施が必要だと思われる。 ・災害時の利用者様の混乱への配慮も必要だと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・面会時や、運営推進会議の中で、事故のリスクについての説明は行っており、ご理解いただいている。		自由に外へ出掛けられる方は、ご家族へ起こり得る事故のリスクを説明し、ご理解頂いた上で承諾していただいている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎朝、バイタル測定実施しており、普段と違う兆候がみられた際は朝の申し送りで伝達し、出勤職員は把握できている。 ・9名という少人数であるため、体調の異変には気が付きやすい。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ご家族から直接薬を預かり、セットする事で、誰がどんな薬を飲んでいるかの把握は出来ている。 ・服薬チェック表を使用し、確実に投薬行っている。 ・薬に対しての全職員統一の理解は出来ていないように思われる。		病院から出された薬の説明書は、捨てずに必ずカルテに挟んで保管している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便の有無を毎日確認し、排便のない日が続いた場合は、牛乳を飲んでいただくなどして、調節行っている。		・体を動かす事の少ない利用者様への声掛けと、楽しく体操できるような工夫が必要かと思われる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・今までの習慣などもあるが、毎食後、全員の口腔ケアは行っていない。 ・夕食後は全員の方が行っているか確認行い、必要に応じて声掛けし、口腔ケアを促している。		・口腔ケアについての勉強会の実施。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・職員にて献立作成後、栄養士に確認して頂き、バランスを見てもらっている。 ・食事量、水分量共に観察し、必要に応じて声掛け行い摂取していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防に関するマニュアルあり。 ・外から戻った際は、うがいと手洗いの実施を徹底している。 ・利用者様、職員共に、インフルエンザ予防接種の実施 ・浴槽の消毒の実施(月1回) ・靴下と肌着の消毒の実施。 		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・生ものは2、3日以内で使い切っている。 ・ふきんの漂白剤での消毒。 ・まな板の夜間漂白の実施。 ・定期的な食器の漂白の実施。 ・食前のおしぼりの使用を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・食事準備を手伝ってくださる利用者様に対しての手洗いの声掛けの実施の徹底。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関外には、季節の花を植え手入れを行っている。 ・平屋造りのため、比較的、家、という雰囲気を出せていると思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子や、押し車などが玄関に置いてあり、狭く感じるため、置き場所の検討必要と思う。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花や、壁画など、掲示している。 ・リビングの水槽には金魚を飼っており、目で見てリラックスできると思う。 ・廊下には、外出先などの思い出の写真を掲示している。 ・照明には蛍光灯は使用しておらず、暖かみのある光の照明を使用している。 ・リラックスできるような音楽をい流している。 		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畳みコーナーでコタツに入りながら音楽を聴く方や、リビングのソファに座りテレビを見る方など、それぞれお好きな場所で過ごしてみえる。 ・リビング以外にも、外を眺められるソファが置いてあり、1人で過ごせるスペースがある。 ・のれんで空間をしきり、1人で過ごせる場所を作っている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベッド、タンスなど、居室内の家具は今まで在宅で使用してみえた物を持って来て頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎朝の掃除の実施。 ・月に1度、「掃除の日」を設置し、普段なかなか掃除できない箇所の掃除を実施している。 ・外気温との差はあまり意識されていない。		・冬季は特に換気が大切である。個々に合わせ、時間やタイミングなど検討必要と思われる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、浴室には手すりの設置あり。扉も全て開き戸となっている。 ・テラスに二層式の洗濯機を設置した事で自分で洗濯される利用者様のみえ、洗濯後、テラスに干すまでやってみえる。		・テラスから中庭への段差が危険と思われ、工夫が必要である。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・平屋造りで、周りは道路に面しており、居室の窓からでも外に出られる環境である。窓は開くが、網戸は開かない様に固定されている。		あえて、何事にも指示をせず、声掛けも行わず、分かる力を最大限に使って頂く様な工夫、また職員全体の意識も必要。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭に畑あり、利用者様は自由に出られ、野菜や花のい手入れをしてみえる。 ・玄関前には、ベンチを設置し、景色を眺めたり、外気浴できる場所となっている。		朝起きたら、畑の野菜を見て、収穫できるのを楽しみにしてみえる利用者様もみえる。「これ、ごはんに使って」と採ってきてくださる方もみえ、今後も継続して行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ボランティアの受け入れ

特に、地域のボランティアさんや、小学生、中学生の体験実習、定期的なハーモニカ演奏のボランティアなど。

・地域との関わりをできるだけ持っている。

地域のスーパー、花屋さんへ買い物に行ったり、喫茶店へコーヒーを飲みに出掛けたり、地元の小学生と交流を持ったりしている。

・「家」という意識を持ち、利用者様一人ひとりが自分のペースで過ごせる様、支援している。

どなたも、出来る能力をまだまだ持ってみえるため、存分に発揮できるよう、一緒に生活している。